

## 研究主題 「児童の道徳的な判断力を高める道徳科の単元学習」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
板橋区立成増ヶ丘小学校 主任教諭 川田 聡子

### 第 1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）に、道徳科の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と示されている。その道徳性のなかでも、道徳的な判断力は、「様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力」（小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月））と示されており、道徳的な判断力をもつことによって、それぞれの場面で適切な道徳的行為が可能になるとされている。学校において、他者の考えに流された判断をしたり、一面的な見方で物事を判断したりする児童の姿が見られ、変化の激しいこれからの社会をよりよく生き抜く上で、児童の道徳的な判断力を高める指導の充実を図る必要性を感じる。

そこで、児童が物事を判断する際に必要となる力を明らかにし、意図的に組み合わせた単元学習を構想することで、児童の道徳的な判断力を高めることが本研究の目的である。

### 第 2 研究仮説

児童の道徳的な判断力の構成要素と発達の傾向を基に単元学習を構想し、指導を工夫することで、児童の道徳的な判断力を高めることができるだろう。

### 第 3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

先行研究から、人が判断する際、「道徳的な問題を見付ける力、問題を解決するための行動やその理由を考える力、自分の行動を決める力」が必要となることが明らかになった。そこで、本研究では、「見付ける力」「考える力」「決める力」を道徳的な判断力の構成要素と位置付けた。

また、児童の発達の段階によって、道徳的な判断力は、大人や友達の考えを基にした判断から自分の考えを基にした判断へと変化することや、物事を判断する際、一面的な見方から多面的な見方ができるようになることが明らかになった。

#### 2 調査研究

道徳科の指導上の課題を明らかにする目的で、平成 30 年 7 月に都内公立小学校 12 校の教員（道徳科の指導の経験がある者）を対象にして、道徳科の授業をする上で、特に難しいと思うことについての調査を実施した（図 1）。

「発問の構成」や「ねらいの設定」を難しく思う教員は回答者全体の 40%であった。このことは、道徳科の授業で何をどのように育てたいのかが明確化されていないことが原因として考えられる。

そこで、道徳科で身に付けさせたい力や期待する児童像を明らかにすることで、課題の解決につながると考えた。

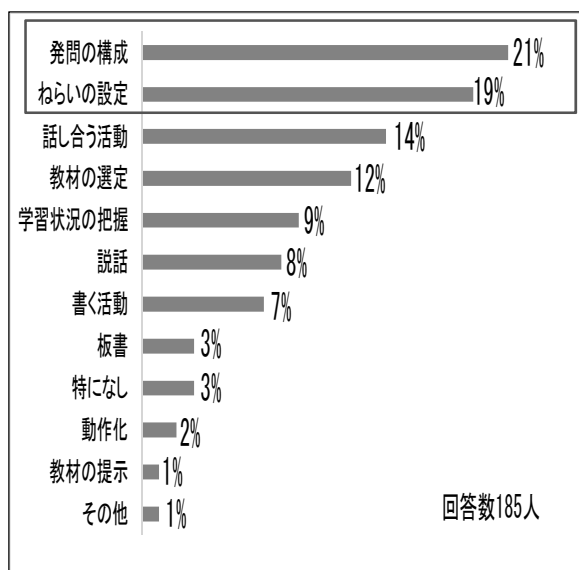


図 1 教員が特に難しいと思っていること（一つ選択）

### 3 開発研究

#### (1) 道徳的な判断力の系統表

道徳科で身に付けさせたい力を明確にするために、発達段階に沿って道徳的な判断力の構成要素を整理し、系統表にした(表1)。

#### (2) 「見付ける力」「考える力」「決める力」一覧表

道徳的な判断力の系統表(表1)と各内容項目の指導の要点を照らし合わせ、期待する児童像を示した一覧表を開発した(表2)。この二つの表を基に、道徳的な判断力を高める授業を構想することで、指導の内容や教師の指導の意図が明確になり、本時のねらいや発問を設定することが可能となる。

#### (3) 道徳的な判断力を高める単元学習

一覧表(表2)を活用し、道徳的な判断力を高める単元学習を開発した(表3)。所属校の道徳教育全体計画や道徳科の年間指導計画、さらに、道徳的な判断力に関する児童の実態について学級担任から聞き取りを行った。それらを基に、「児童に『見付ける力』『考える力』『決める力』をどの内容項目でどのように高めていくか。」という視点(図2)で構想した。

表1 道徳的な判断力の系統表

| 学年  | 道徳的な判断力の発達の傾向              | 道徳的な判断力の構成要素                     |   |                            |
|-----|----------------------------|----------------------------------|---|----------------------------|
|     |                            | 見付ける力                            | 考える力                                      | 決める力                       |
| 低学年 | 大人の考えに基づいて、判断する傾向          | 教材における登場人物が何に困っているか、悩んでいるかを見付ける。 | 問題を解決するための行動やその理由について、大人の考えを基に考える。        | 大人の考えを想起しながら、自分の行動を決める。    |
| 中学年 | 大人の考えよりも友達への考えに基づいて、判断する傾向 | 教材から、自分で道徳的な問題を見付ける。             | 問題を解決するための行動やその理由について、自分の考えや友達への考えを基に考える。 | 自分の考えや友達への考えを基に、自分の行動を決める。 |
| 高学年 | 自分の考えに基づいて、判断する傾向          | 道徳的価値に着目して、的確に道徳的な問題を見付ける。       | 問題を解決するための行動やその理由について、多面的に考える。            | 自分の考えを基に、自分の行動を決める。        |

表2 「見付ける力」「考える力」「決める力」一覧表(一部抜粋)  
(塗つぶしの部分は、検証授業を行った箇所)

| 内容項目                          | 指導の要点   | 小学校第5学年及び第6学年(22項目)                             |  |                                    |
|-------------------------------|---|---|--|------------------------------------|
|                               |   | 道徳的な判断力の構成要素                                    |  |                                    |
|                               |   | 見付ける力   | 考える力                                       | 決める力                               |
|                               |   | 道徳的価値に着目して、的確に道徳的な問題を見付ける。                      | 問題を解決するための行動やその理由について、多面的に考える。             | 自分の考えを基に、自分の行動を決める。                |
| <b>A 主として自分自身に関すること</b>       |   |   |  |                                    |
| 善悪の判断、自律、自由と責任                | (1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。                     | 自由を捉え違い、相手や周りのことを考えずに、自分勝手な振る舞いをしているという問題を見付ける。 | 自分の意志で考えて判断するための行動やその理由について、多面的に考える。       | 自律的で責任のある行動しようとする。                 |
| <b>B 主として人との関わりに関すること</b>     |   |   |  |                                    |
| 友情、信頼                         | (10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。 | 互いの人格を尊重し合う人間関係を築くことができていないという問題を見付ける。          | よりよい人間関係を築くための行動やその理由について、多面的に考える。         | 互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくために、行動しようとする。 |
| <b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b> |   |   |  |                                    |
| 規則の尊重                         | (12) 法やまじりの意義を理解した上で、進んでそれを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。     | 権利や義務の観点から、自他の行動について考えることができていないという問題を見付ける。     | 自らが果たす義務や自他の権利を尊重するための行動やその理由について、多面的に考える。 | 自他の権利を尊重し合い自らの義務を進んで果たそうとする。       |

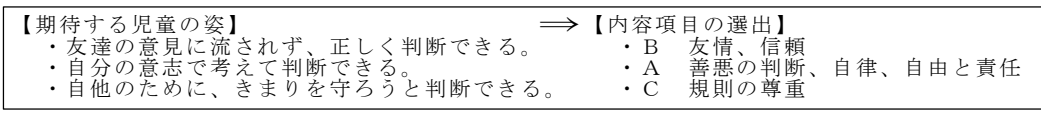


図2 単元計画を構想する視点

表3 道徳的な判断力を高める単元学習

| 単元の目標        | 児童の道徳的な判断力を高める。   |  |  |
|--------------|---|--|--|
| 時            | 第1時   | 第2時  | 第3時  |
| 道徳的な判断力の構成要素 | 見付ける力   | 考える力   | 決める力   |
| 教材           | 借りたいはずの自転車  | ロジエル   | 門番のマルコ   |
| 内容項目         | B 友情、信頼   | A 善悪の判断、自律、自由と責任   | C 規則の尊重  |
| 発問の工夫        | 【問題を見付ける発問】<br>・登場人物の行動で、問題だと思うことはありますか。<br>・登場人物の行動は、本当に問題なんでしょうか。<br>・あなたにとって、問題とはどのようなことですか。 | 【行動とその理由を考える発問】<br>・登場人物はどんなことを考えて、行動したのでしょうか。<br>・あなたは、問題を見つけたとき、どんなことを考えていますか。   | 【行動を決める発問】<br>・登場人物はどうしたらよいでしょうか。また、それはどうしてですか。<br>・あなたは、問題を解決するために、どんなことを大切にしていますか。 |
| 指導の工夫        | 導入の工夫<br>「問題」に対する児童の興味や関心を高めるために、身近な例を取り上げ、本時の学習課題を把握させる。                                       | 行為の理由の考え方(どのような理由で考えているかを示したもの)<br>・みんなのために(みんなのために～する。)<br>・相手のために(相手のために～する。)<br>・自分のために(損得)(自分のために～する。など)<br>・友達が～だから(友達が～していたからする。など)<br>・大人が～だから(大人に～言われたからする。など) |  |

#### 4 検証授業

検証授業は、所属校の第6学年3学級102人の児童を対象に、9月と10月に実施した(表4)。

表4 検証授業の概要

| 時           | 第1時(見付ける力)                                      | 第2時(考える力)                                    | 第3時(決める力)  |
|-------------|---|--|--|
| 1 期待する児童の姿  | 道徳的価値に着目し、問題を見付けることができる。                        | 多面的に考えることよさや大切に気付くことができる。                    | 自分の考えを基に決めるよさや大切に気付くことができる。                      |
| 2 検証する指導の工夫 | 【問題を見付ける発問】                                     | ・【問題を考える発問】<br>・「行為の理由の考え方」の活用               | ・【行動を決める発問】<br>・「行為の理由の考え方」の活用                   |
| 3 検証の方法     | 児童のワークシートの記述から分析する。                             |  |  |
| 4 検証の内容     | ・児童が問題を見付けているか。<br>・授業の終末で、どのような内容の振り返りを行っているか。 | ・多面的に考えているか。<br>・授業の終末で、どのような内容の振り返りを行っているか。 | ・自分の考えを基に決めているか。<br>・授業の終末で、どのような内容の振り返りを行っているか。 |

##### (1) 検証の結果と考察

###### ア 第1時「問題を見付ける」について

###### (7) 結果(図3)

- ・「登場人物の行動は、本当に問題なのか。」と発問したことで、70%の児童が本時における道徳的価値に着目して、問題を見付けることができた。
- ・「自分にとっての問題とは何か。」と発問し、問題の捉え方を話し合ったことで、問題を見付けることができなかった児童のうち61%の児童が問題を見付けることよさや大切に気付く内容の振り返りをしていた。

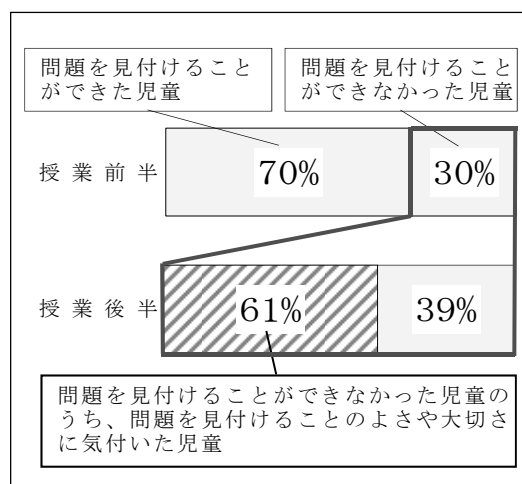


図3 第1時の検証結果

###### (4) 考察

- ・「問題とは何か。」と学習課題を設定し、①教材中の問題、②自分にとっての問題と2段階で考えたことで、問題についての考えが深まり、問題を見付けるよさや大切に気付くことができたと考えられる。

###### イ 第2時「多面的に考える」について

###### (7) 結果(図4)

- ・「あなたは、問題を見つけたときに、どんなことを考えていますか。」と発問し、多面的に考えた児童は26%であり、一面的に考えた児童は74%であった。
- ・「行為の理由の考え方」を活用し、話し合いをしたことで、一面的に考えた児童のうち、79%の児童が多面的に考えるよさや大切に気付く内容の振り返りをしていた。

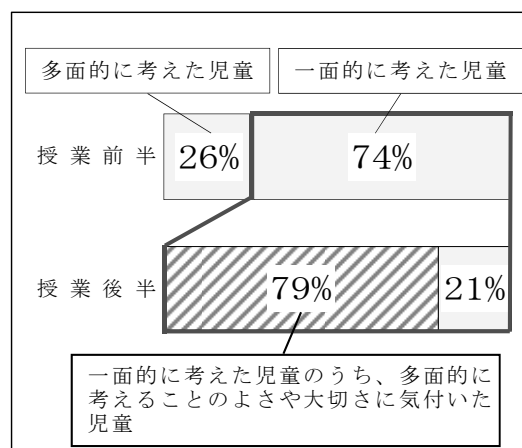


図4 第2時の検証結果

###### (4) 考察

- ・「問題を解決するために、どんなことを考えればよいのだろうか。」と学習課題を設定し、行動とその理由の考え方を、登場人物と自分の2段階で考えたことで、多面的に考えるよさや大切に気付くことができたと考えられる。

ウ 第3時「自分の考えを基に決める」について

(7) 結果 (図5)

- ・ 「登場人物は、どうしたらよいか。それは、なぜか。」と発問し、登場人物の行動について、自分の考えを基に決めた児童は37%であった。一方、63%の児童は、「きまりだから仕方ない。」「言われたとおりに行動すればよい。」とし、自分の考えを基に決めることはなかった。
- ・ 「きまりは何のためにあるのか。」「誰のためのきまりなのか。」と補助発問をしたことで、自

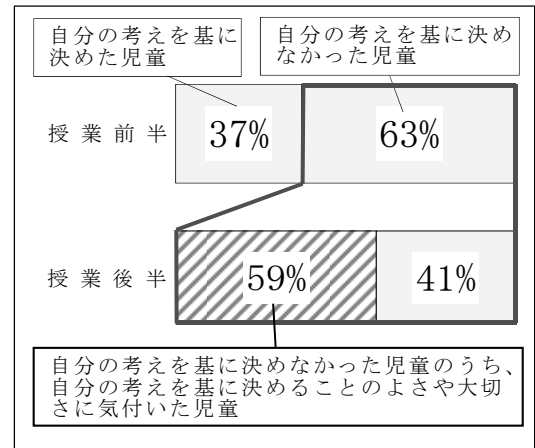


図5 第3時の検証結果

分の考えを基に決めることがなかった児童のうち59%の児童が、自分の考えを基に決めるよさや大切さに気付く内容の振り返りをしていました。

(1) 考察

- ・ きまりの意義について考える発問をしたことで、法やきまりであっても、自分の考えを基に守ろうと決めることが大切であることに気付くことができたと考える。

(2) 児童の変容について

ワークシートの記述から、単元学習における児童一人一人の学びを分析した。児童Aは、今までの自分を振り返り、自分の考えを基に判断する大切さに気付くことができた。また、児童Bは、連続した学びを通して、相手意識をもつ判断が大切であると考えることができた(表5)。

表5 児童の記述内容 (下線部は期待する児童の姿を見取ることができた箇所)

| 時   | 第1時 (見付ける力)  | 第2時 (考える力)  | 第3時 (決める力)  |
|-----|--|---|---|
| 児童A | 自分が困ることや納得がいけないことは問題だと思う。でも、 <u>友達関係を大事にしていくためには、自分だけではなく、相手が困っているかもしれない問題に目を向けたい。</u> | 今までは、これはまずいなど思っても、めんどろなことは考えないようにしていた。 <u>これからは、正しいかどうかを考えると、いろいろな立場に立って考えたい。</u> | きまりだからなんとなく守っていればいいかなと思っていたけれど、違うと思った。 <u>「なんで、このきまりはあるのかな。」と考えて、自分から守っていききたい。</u>    |
| 児童B | 問題が何かなんて考えたのは初めてだった。 <u>これは問題だなど思った時に、相手のためにも、ちゃんと立ち止まって考えることが大事だと思った。</u>             | 自分の考えを優先して考えることが多かったけど、正しい行動をするためには、 <u>相手や周りのことをしっかり考えなくてはならないことを学んだ。</u>        | 自分の都合で、きまりを守ったり守らなかつたりしていたことに気付いた。 <u>きまりの意味について考えて、しっかり守っていくことが相手や周りのためにもなると思った。</u> |

第4 研究の成果

- ・ 児童が道徳的な判断を行う際に必要な力を道徳的な判断力の構成要素とし、単元を構想したことで、「見付ける力」「考える力」「決める力」の高まりが見られ、道徳的な判断力の育成につながったと考える。
- ・ 各内容項目に関わる道徳的な判断力の構成要素を整理したことで、児童にどんな場面でのどんな力を身に付けさせたいかといった、より具体的な期待する児童像を設定することができ、実態に応じた指導が可能になった。

第5 今後の課題

- ・ 本単元の学習を通して、児童により効果的に道徳的な判断力を高めるための年間指導計画における位置付けを検討する。
- ・ 他教材で、本単元のような道徳的な判断力を高める単元学習が可能であるか検証する。